



かぐら 神楽

相馬は、たくさんの神楽が伝えられている神楽の里です。

春にはほうさくをねがってまつり、秋にはほうさくにかんしゃして神におれいのまいをします。それぞれの地区にいろいろな神楽があります。



かご馬

むかしのよめいりは、夕方から夜にかけて行われました。夜道でなにごともおこらないようにと花よめを守るため、男が女の着物をきて、けししょうし、花よめをむかえにいったことから、「かご馬」といわれました。



かせどり

正月14日に子どもたちが各家をまわり、鼻をならしてもちやおかしをもらいました。

今は、おとながかそうしてやく年の家をまわり、歌やまいをしてやく流しの手伝いをするようになりました。